国際学会におけるリウマチ性疾患調査・研究発表に対する助成者報告書（EULAR 2019）

桑名市総合医療センター 膠原病リウマチ内科 医長　小寺 仁 氏

欧州リウマチ学会（EULAR 2019）への参加に際し、日本リウマチ財団から「国際学会におけるリウマチ性疾患調査・研究発表に対する助成」を賜りましたので、ここにご報告申し上げます。

今回、“Response to biologic therapy is influenced by the body mass index in patients with rheumatoid arthritis”との表題で発表を行いました。関節リウマチ治療において、生物学的製剤は高い効果を期待して導入されますが、その有効性は概して均一ではないという問題点があります。市中病院での日常診療で使用できるような治療効果予測マーカーは存在せず、また、Body Mass Index（BMI）の生物学的製剤の有効性への影響については一部議論があります。そこで、生物学的製剤の治療反応性に影響する因子をBMIも含め検討致しました。

2011年1月から2016年12月の間に四日市羽津医療センター（三重県 病床数226床）膠原病内科で生物学的製剤が導入された関節リウマチ患者（バイオナイーブ）を対象としました。同治療開始6ヵ月後の EULAR response criteria で治療反応性を評価し、それをBaseline characteristics（性別、年齢、罹病期間、BMI、圧痛関節数、腫脹関節数、Patient’s visual analog scale、Doctor’s visual analog scale、赤血球沈降速度、CRP、DAS28、mHAQ、メトトレキサート使用、プレドニゾロン使用）で比較・検討致しました。その結果、EULAR response criteria の“Good or Moderate response”と“No response”の患者群間で、BMI及び罹病期間に有意差が確認されました。同結果は生物学的製剤間で一部異なり、今後の薬剤選択の参考になると考えられました。

最後になりましたが、今回の学会参加に際し日本リウマチ財団より多大なるご支援を賜りましたことに深謝申し上げます。